

税についての作文

名寄地方納税貯蓄組合連合会 優秀賞など6人が入賞

国税庁と全国納税貯蓄組合連合会が主催する、中学生の「税についての作文」について

下川町も共催し募集を行いました。これは、将来を担う中学生の皆さんが、身近に感じた税に関する事、学校で学んだ税に関する事と、テレビや新聞で知った税の話などを題材とした作文を書くことで、税についての関心を持ち、正しい理解を深めていただくことを趣旨として行われています。下川町からは、下川中学校3年生30人の応募があり、次の優秀作6品を参考に、表彰及び記念品の贈呈を行いました

下川町優秀賞

小原圭乃さん

丸井麻友香さん

野崎溜菜さん

山田凜さん

小坂さかさん

三島大輝さん



名寄地方納税貯蓄組合連合会優秀賞

「なくそう税金で
国の貧富差」



下川中学校三年
小原圭乃

みなさんは、税金の使い道と言われているようなものを思い浮かべますか。私達中学生も税金を消費税という形で8パーセント納めています。日本国内には年間7兆1394億円納められています。(平成23年度のデータより)この数字は世界的に見ても日本は7番目に高いと言えます。しかし、私はその分我が国は環境や様々な制度が十分にあると思います。まず、私達学生にとって身近なのは、義務教育中に配られる教科書等の材料です。中国やブラジルなどは

有償制国なので、貧困家庭に育った子は十分な教育を受けることが難しいのではないかと思います。日本では、この無償制度(憲法第26条)があります。この制度は税金が必要不可欠だと思っています。環境面では、救急車の運用や救命活動など緊急時に、税金が使われています。救急車は、スウェーデンなどでは有料となっており、日本でも有料化を検討しています。そのようにすることによって高齢者がお金がないからという理由で救急車を呼び辛くなってしまうかもしれません。裕福な人のみが助かる世の中にならないためにも税金は必要だと思います。

「貧富の差」は税金に大きく関わっています。生活保護という制度もあります。私はこの制度の内容をテレビドラマをきっかけに初めて知りました。この制度は、長期間働けなくなったりし生活する上で十分な収入が得られない場合に税金を通して支援する制度です。これにより、生活が不可能で亡くなる人は少なくなっています。

なっています。税金は、貧富の差を少なくし、誰でも必要最低限の生活をするのに必要だと思っています。しかし、日本はユニセフの調べで格差が41ヶ国中ワースト8位となっています。でも、日本の格差は外国と比べて、目立った貧困家庭は少ないと感じます。それは、税金によって収入が多い人は多くの税金を支払い、収入が少ない人は納税額も少なく支援を受けられる仕組みがあるからです。これは、一見不平等に感じるかもしれませんが、全く不平等ではないと思います。日本の税金は、金銭面で生活が不可能になってしまったときに環境や制度として返ってきます。今、この時、この瞬間にも、日本国内でも少なくとも困っている人がいる。このような人を助けるために税金はあるのです。納税は義務でなく、人助け。このように思うと、納税をするのも、気持ちも軽くなります。

お問い合わせ

税務住民課 税務収納グループ
☎ 4-2511 内線113 ☆ 4-251103